

# ヘルニア・脊柱管狭窄症に対する神経ブロック注射について

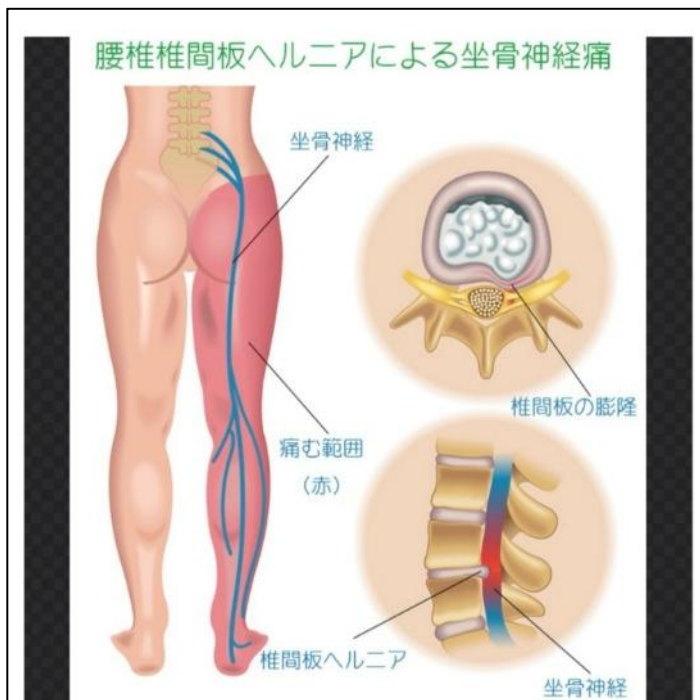
## 1. ヘルニアで神経が圧迫されるとどうなる？

神経が圧迫され、滑走障害が起こり生じる痛みを**神経障害性疼痛**といいます。

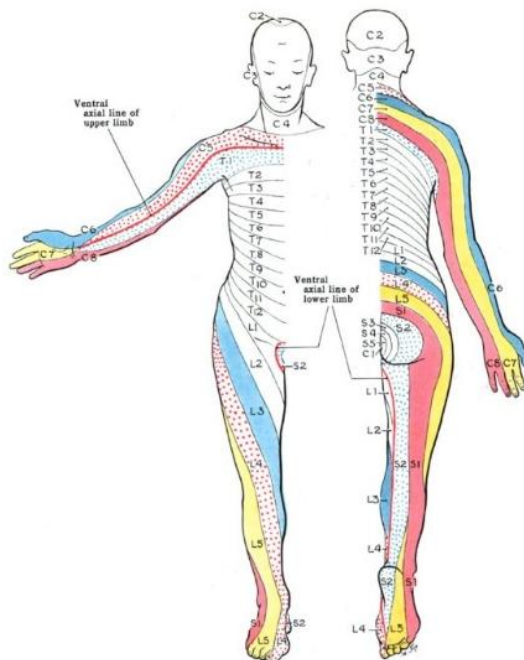
体の深部から神経を伝わって痛みが発生するため、患者様自身もどこが痛いのかわからず、痛い場所が日々少しずつ変わり不安になる事が多いと思います。

腰のヘルニアや脊柱管狭窄症により脊椎近くで神経圧迫が起こった場合、長時間座位で足裏に違和感を感じる等の軽症な患者様もいれば、坐骨神経（青い線）に沿って強烈な痛みがあり5分も満足に歩けない重症な人もおられます。

ひとえに腰椎椎間板ヘルニアと診断されても症状は多岐にわたり、患者様が求める治療内容も様々です。



# 関節や筋肉で説明がつかない場合 痛みの原因は体の奥の神経です



頸椎病変は 肩甲部～上肢 のいたみ

腰椎病変は 臀部 ～下肢 のいたみが起こります

## 2. まだ自分は軽症だと思いますが対処法はありますか？

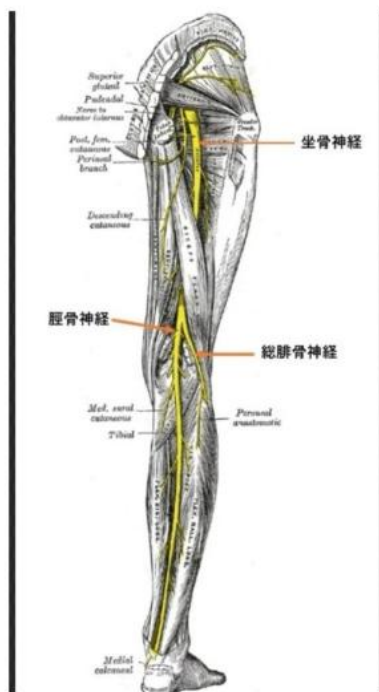
軽症な神経痛やこりにはまずマッサージ・ストレッチ・低周波治療が有効と考えます。

脊椎からでた神経は筋肉に挟まれる形で走行し、四肢へと至ります。

太もも後面のストレッチをするだけでも神経は 5mm 程度伸長するとされており、筋肉と神経の滑走を高めることは痛みの改善に必要です。

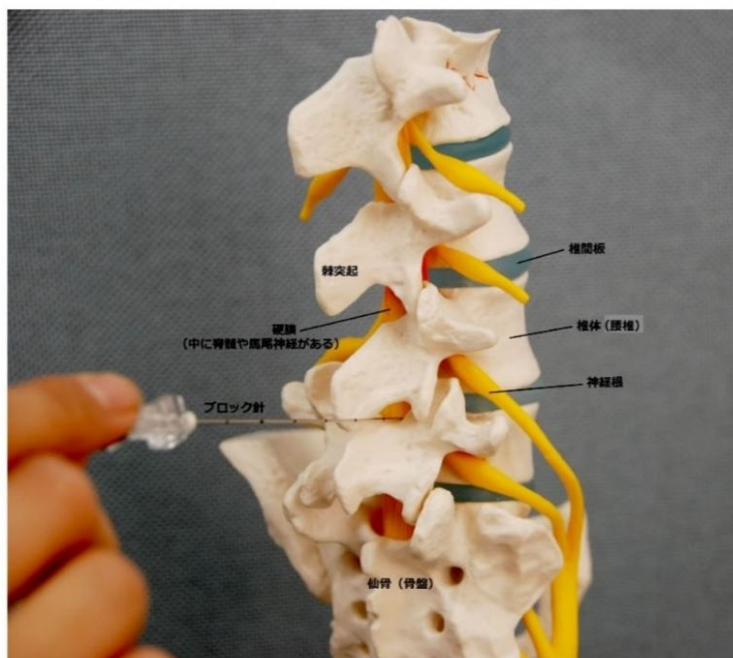
当院ではリハビリのみで効果が得られない場合、筋と神経の間に生理食塩水を流し滑走を高める**ハイドロリリース注射**を行っております。

# 神経は脊椎を出た後、 血管と共に筋肉の間を走行



### 3. 神経ブロックの詳細と適応について

重症な神経の狭窄がある場合、患者様の中には民間療法が全く奏功しない方がいます。脊椎で強度な神経炎症が起こっているため、通り道の皮膚や筋肉をマッサージする治療には限界があり **神経の狭窄部位に直接アプローチをすることが必要**です。



# 痛み(神経の炎症)が減り ストレッチが出来ると経過は良好



当院では初診から歩行障害呈する症例や、リハビリ的治療で改善が得られなかった患者様には積極的に神経ブロックを行っています。ブロック注射による除痛効果は以下の2点があると考えます。

- ① 神経がブロック注射によって液性剥離されることで、炎症性サイトカインが除去・神経滑走が高まる。
- ② ステロイドを直接圧迫された神経に流すことで、神経の腫れが軽減され、周囲組織の血流が改善される。

当院では神経ブロックにより神経の炎症や痛みが明確に減少した後、神経ストレッチを指導させていただいております。両者がしっかり達成できた場合、良い経過が期待できます。



全例超音波を用いて注射を行っています。神経の位置を確認しながら行う事で、注射の确实性の担保と過度に疼痛を引き起こさない工夫をしております。

※ブロック注射は固い骨棘や靭帯を除去する効果はなく、あくまで**強力な対症療法という位置づけ**と考えております。**効果が一時的な場合無理に引き延ばさず手術を薦める症例もあります**が、そのような場合でも狭窄部位に注射する事で除痛効果があったのだから、手術できれいに取り除けばよくなると決心するきっかけになる事も多いです。